

要旨

本稿はチベット・ビルマ語派ゾゾ語に見られる意外性や受影性を表す授与動詞構文を、非意図的授与動詞構文として捉え、意味論的・統語論的に分析し、類似の授与動詞構文を持つシナ・チベット語族の他言語と、更にはその周辺に分布するインド語派とドラヴィダ語族の一部の言語とも比較する。そして、ゾゾ語の非意図的授与動詞構文が、事態の好悪に関わらず用いられ、自他動詞のいずれもが前項動詞となり、与格主語を許容するという3つの特徴を全て持ち合わせている点で、本稿で取り上げた他言語と差別化できることを述べる。また、授与動詞構文が本来的に持つ3項性を失っている点で、非意図的授与動詞構文とドイツ語等の存在を表す授与動詞構文は共通するが、これらの構文がどちらもSVO言語において形式的な主語や目的語が現れる点でも共通することを指摘する。最後に日本語の自然現象のテクレル文を、好ましい事態のみを表す非意図的授与動詞構文として類型論的に位置付ける。

はじめに

授与動詞構文は、与益 (benefactive)、使役 (causative)、受動 (passive) の各用法を表す構文として、系統的・地理的に広範囲の言語を対象にした類型研究 (Newman 1996; Yap & Iwasaki 2003, 2007; Zúñiga & Kittilä 2010 等) が行われてきた。しかし、それらの構文よりも更に文法化が進んだ意外性 (unexpectedness) や受影性 (affectedness) を表す授与動詞構文の研究については、個別言語の研究 (劉 1997; Pokharel 2000; Matsuse 2004; Matthews, Xu & Yip 2005; 張 2009; Zeisler 2013; Schackow 2015) 等が散見されるものの、類型論的な研究は筆者の知る限り、シナ語派言語を扱った Chen & Yap (2018) のみである。本稿は、この構文を非意図的授与動詞構文と位置づけ、類型論的分析を試みる。

1 ゾゾ語の類型的特点

ゾゾ語 (英語名: Zauzou、中国語名: 若柔語) は、中国雲南省怒江リス族自治州に3000人程度の母語話者が居住するチベット・ビルマ語派ロロ・ビルマ語支ロロ語群に属する言語である。

ゾゾ語の音韻的特徴は、以下のように纏めることができる。

子音: p, ph, t, th, k, kh, ʔ, ts, tsh, te, teh, f, s, ɕ, x, h, v, z, z, ɣ, m, n, ŋ, l

母音: i, ɿ, u, u, e, ɛ, o, ɔ, a

鼻音化母音: ī, ŋ̄, ũ̄, ẽ̄, ẽ̄, ȭ, ã̄

声調: 55 (高平)、33 (中平)、53 (高中)、35 (中高)、31 (中低)、13 (低中)

音節構造: (C1)V1(V2)

ゾゾ語の語順類型的特徴として、基本語順はSOV型であり、名詞の格は語順と名詞の後に付ける格標識によって示される。無標識は主格・対格・場格・目標格を、 ρ^{31} は対格・与格を、 xe^{31} は動作主格・奪格・具格を表す。直接目的語(対格)と間接目的語(与格)は形態的に区別されない。場格は無標識の場所名詞で表される。動詞は変化せず、テンス標識もない。アスペクトやモダリティの標識は存在し、動詞の後に置かれる。

(1) $\eta o^{33} tu^{33} \rho^{31} \eta \alpha e^{55} \gamma o^{13} z o^{31}$. (李・李 1993:17)

私 彼 ACC 見る ASP 「私は彼を見た。」

*ACC=対格、ASP=アスペクト標識

(2) $\eta i o^{31} t s o^{33} t s h e^{31} t s o^{31} z o^{31} l o^{31}$. (李・李 1993:17)

あなた 朝食 食べる ASP Q 「あなたは(もう)朝食を食べたか。」

*Q=疑問標識

(3) $\eta u^{33} tu^{55} \rho^{31} t e h i a^{31} p e e^{33} t u^{31} \gamma u e^{13} p i^{13}$.

私 彼 DAT お金 少し 与える 「私は彼に少しのお金を与える/た。」

*DAT=与格標識

2 ゾゾ語の授与動詞構文とその多義性

ゾゾ語の動詞 pi^{13} は、(3) のように授与行為を表す本動詞としての機能の他に、[前項動詞+ pi^{13}] の形で補助動詞としての機能も有する。補助動詞としての意味は、日本語の授与補助動詞構文「テクレル」「テヤル」と同様、広範囲の前項動詞をとり、与益を表す。(4) のように生産を表す他動詞が前項動詞となり、具体物の移動が伴うような与益の授与動詞構文は多くの言語に見られるが、(5) のように自動詞が前項動詞となり、具体物の移動が伴わない例にも適用されるのは、授与動詞構文の文法化がより進んだ言語に限られる (澤田 2014)。

- (4) *tu⁵⁵ŋu³³ɔ³¹ ɔa⁵⁵phiu⁵³tu³¹le³¹ tse⁵³pi¹³.*
 彼 私 DAT 籠 1 CLS 編む 与える 「彼は私に籠を編んでくれる。」 *CLS=類別詞
- (5) *ŋu³³tu⁵⁵ɔ³¹ pu¹³te³¹zi³³pi¹³.*
 私 彼 DAT 北京 行く 与える 「私は彼のために北京に行つてあげる。」

また、主語が無生物の場合も、前項動詞の自他に関わらず、授与動詞構文を作ることができる。

- (6) *ei³¹tse³³ɔa³³va⁵³ne³³tu⁵⁵le³¹ta⁵³pi¹³te³³zo³¹.*
 桃 木 今年 TOP その 実 なる 与える ASP 「桃木が今年実をつけてくれた。」 *TOP=主題標識
- (7) *ɔ³³tu³⁵pa¹³uu³³khour³⁵ne³³mu³¹ye⁵³vu³³pi¹³te³³zo³¹.*
 トウモロコシ 今 植える TOP 雨 降る 与える ASP 「トウモロコシを植えたら雨が降つてくれた。」

与害 (malefactive) も表すことができる。

- (8) *ŋɔ³¹tse⁵³ɔe³¹mu³³ta³³ɔa³¹nā⁵⁵ne³³ŋu³³ŋɔ³¹ɔ³¹sa⁵³ei⁵⁵pi¹³xo³³xe³¹.*
 あなた 再び 加わる NEG 望む TOP 私 あなた ACC 殺す 与える MOD *NEG=否定標識
 「お前がもう一度加わりたくないなら、俺はお前を殺してやる。」 *MOD=モダリティ標識
- (9) *miā³¹ko³³tehi³³pu³³vu¹³xe³¹ŋu³³ɔ³¹tu³¹teia³¹pe³³pi¹³ɔ¹³.* *INST=具格標識、PL=複数
 馬 CLS 足 PL INST 私 ACC 一度 蹴る 与える MOD 「馬が俺を足で蹴飛ばしやがった。」

更に、(10) の操作使役や (11) の受動にも授与動詞構文が用いられる。但し、ゾゾ語の使役は一般的に文末に「言う」を表す動詞を付けることで表され、(10) のような例は限定的であるため、使役構文というよりも与益構文の一つと考えたい。また、ゾゾ語には受動一般を表す形式がなく、被動者に焦点を当てる文は、動作主に代わつて被動者を文頭に置くことだけで示される。従つて、(11) のような文は、受動構文というよりも与害構文と見なしたい。

- (10) *ɔa³³me⁵⁵sɔ³³ŋa⁵⁵za³³ɔ³¹mi³³va⁵³pi¹³ɔ¹³.*
 母親 子供 CLSDAT 服 着る 与える ASP 「母親は子供に服を着せている。」
- (11) *ku³¹eu³¹vu¹³ɔ⁵³tu¹³xe³¹eiā³³xo³³uuā³³tsou³¹pi¹³zo³¹.* *AGT=動作主
 粟 PL 鶏 PL AGT 沢山 啄む 食べる 与える ASP 「粟が鶏に沢山食べられてしまった。」

(12) ~ (16) は、本稿で主張する非意図的授与動詞構文のグループである。これらは、与益、与害、使役、受動の何れの意味も表しておらず、それぞれ、事態の意外性、非制御性、境遇性、不運、幸運を表している。補助動詞の前項動詞は、自他動詞のどちらも許容し、その主語（本稿ではゾゾ語の主語について、その定義の議論は行わず、主語という語を暫定的に用いる。）に相当する語は、主格（無標識）か与格で標示される。また、補助動詞的に用いられる授与動詞は、それが原義的に持つ3項性（授与者、受領者、授与物）を失い、行為の動作主を文中に持たない点でも共通する。なお、例文中の () は省略可の意味である。

- (12) *za³⁵teie³¹teiu⁵⁵xo⁵⁵su³¹tha³³tu⁵³pi¹³to⁵³.* <意外性>
 縄 新しい CLS なぜ 切れる 与える MOD 「新しい縄がなぜ切れているのか。」
- (13) *ɔa³³kō³³ŋu³³(ɔ³¹)thu³³ŋā⁵³me¹³zu³³pi¹³to⁵⁵.* <非制御性>
 最近 私 DAT いつも 居眠りする 与える MOD 「最近私はいつも居眠りをしてしまう。」
- (14) *tsa³³khō³⁵ɔa³³za³³tu³¹she⁵³she⁵³teie¹³ɔ³¹tō³¹to³¹ku⁵⁵ŋu³³pi¹³to⁵³.* <境遇>
 老人 この CLS 一生涯 山 洞穴 中 住む 与える ASP
 「この老人は一生山の洞穴に住まざるを得ない。」
- (15) *eiā³³xo³³ɔa³¹phe⁵³za¹³phe⁵⁵giu³⁵pi¹³ze¹³.* <不運> *CONJ=連結標識
 長く NEG 射る CONJ 射る 損じる 与える MOD 「長い間弓を射っていなかったのでの的外してしまう。」
- (16) *ŋu³³(ɔ³¹)myi³³tu³¹le³¹ue⁵⁵pi¹³ɔ¹³.* <幸運>
 私 DAT お金 1 CLS 拾う 与える MOD 「私は（幸運にも）一元のお金を拾つた。」

仮に授与補助動詞の主語を想定するなら、それは言表されない何らかの超越的な力であると考えられ、その外部からの力は、具格形式や、原因を表す後置詞によって表すことが可能である。

- (17) *mi³¹ze³³xe³¹ ʔa³¹pe³³mā³³teia⁵⁵xo⁵³ ʔa³³ teia⁵⁵pa⁵³ʔu⁵³pi¹³ to⁵³.*
 神 INST 我々 軍 戦う REL この 戦い 勝つ 与える MOD *REL=関係節標識
 「神のおかげで私たちの軍が戦ったこの戦いに勝利できた。」
- (18) *pe¹³zu³¹ pu¹³te³¹ʔa³¹ne¹³khā³¹ze³³le³³ (ʔo³¹) teiu⁵³ʔa³³pi¹³ zo³¹.*
 地震 原因 古い 家 CLS DAT 倒れる 与える ASP 「古い建物が地震で倒壊した。」

以上、ゾゾ語の非意図的授与動詞構文を纏めると、①事態の好悪、動詞の自他（非対格動詞、非能格動詞、他動詞）に関わらず、非制御的、不測的、運命的な出来事を表すこと、②授与動詞が本来的に要求する3項性を失い、授与者（事態を至らしめた主体）が文中に示されないこと、③主語に該当する語が意志性を失い、経験者や被動者となり、形態的には主格（無標識）のほか、与格を取れることの3点を挙げることができる。

3 他言語の非意図的授与動詞構文

ここでは、ゾゾ語の非意図的授与動詞構文と類似的な授与動詞の用法を持つと思われる他言語について見ていく。

3. 1 チベット・ビルマ語派言語

Matsuse (2004) よれば、ネワール語には授与動詞 *biye* を補助動詞に持つ構文があり、[動詞過去連用形 (past conjunct) + *biye*] の形式で与益のほか、(19) (20) のような不測事態の発見を表す。この構文は、許容する前項動詞が変化を表す自動詞に限られ、特徴的なこととして、話者がこの不測事態の発見者としてその事態の発生現場にいなければならないものの、その話者は (21) のように文中において与格名詞で表すことができない (Matsuse 2004: 468)。

- (19) *khē ta: jyānā bila.* (Matsuse 2004: 468) <ネワール語>
 卵 割れる.PC 与える.PST 「卵が割れた。」 *PC=過去連用形、PST=過去
- (20) *khāpā cānā bila.* (Matsuse 2004: 468) <ネワール語>
 戸 開く.PC 与える.PST 「戸が開いた。」
- (21) **khāpā cānā jita bila.* (Matsuse 2004: 468) <ネワール語>
 戸 開く.PC 私.DAT 与える.PST 「戸が私に開いた。」

次に、Schackow (2015: 299) によれば、チベット・ビルマ語派のキランティ諸語に属するヤッカ語の授与動詞 *piʔa* は、[動詞+授与動詞] の形式で *by* に音変化し、与益・与害のほか、(22) (23) のように望ましくない事態の影響を受けたことを表す。この場合、前項動詞は自動詞に限られ、主語は意志を持つ動作主を許容しない。影響を受けた者が話し手や他の関係者である場合は、(22) のように明示されない。

- (22) *wasik n-da-ya-n, nnakha ghak her-a-by-a=hoj.* (Schackow 2015: 299) <ヤッカ語>
 雨 NEG-来る-PST-NEG それら 全て 枯れる-PST-与える-PST=SEQ *SEQ=sequential 継起形
 「雨が降らなくて、それら（作物）は全て枯れてしまった。」
- (23) *ka tug-a-by-a-ŋ-na.* (Schackow 2015: 299) <ヤッカ語>
 私 病気になる-PST-与える-PST-1.SG-NMLZ 「私は病気になった。」 *1SG 1人称単数、NMLZ=名詞化標識

その他、チベット・ビルマ語派の言語では、ボディック諸語のツアンラ語とラダック・バルティ諸語のラダック語の授与動詞構文の中に、与益の用法に加え、悪影響や意外性を表す用例が見られる。(24) では1人称受領者限定の授与動詞 *ka¹³* がアスペクト標識を伴うため鼻音尾 *-n* がついている (張 2009: 885, 948)。

- (24) *a⁵⁵ tsa⁵⁵, su¹³ ki¹³ te 'uj⁵ kan¹³ ei.* (張 2009: 914) <ツアンラ語>
 あー とげ INST 刺さる 与える ASP 「痛ッ、刺が刺さった。」
- (25) *kha-s laptse lip skon-teaŋ-sok.* (Zeisler 2013: 9) <ラダック語>
 雪-ERG 滑車 完全に 覆う-与える.PST-INF 「(予期せず)、雪が滑車を完全に覆ってしまった。」 *INF=不定詞

3. 2 シナ語派言語

非意図的用法に該当すると考えられるシナ語派言語の授与動詞構文としては、まず蘇州語の授与動詞「拨」を持った特殊な構文 (劉 1997) を挙げることができる。この構文は、受動構文とは関係性があるものの、(26) のような [受

動者＋被動介詞＋能動者＋他動詞]の典型的な受動構文の形式を取らない。そして、この構文は(27a)のように自動詞とともに用いられ、受動者が文中に現れず、好ましくないことの遭遇、意外なこと、思い通りにならないことを表すために用いられる。なお、劉は(27a)の蘇州語例文の北京語訳に(27b)のように受身の「被」を使っていることから、受け身的に解釈しているようである。この構文は日本語では迷惑を表す自動詞受動文に対応する。

(26) 魚当心 拨 苍蝇 叮。(劉 1997: 7) <蘇州語>

魚当心 与える ハエ 刺す「魚当心(人名)は刺しバエに刺された。」

(27) a. 昨日子 拨 个 犯人 逃走 脱 嘖。(劉 1997: 7) <蘇州語>

昨日 与える CLS 犯人 逃げる RVC MOD「昨日犯人に逃げられた。」 *RVC: 結果補語

b. 昨天被那个犯人逃跑了(劉 1997: 7) <北京話>「昨日あの犯人に逃げられた」

更に(27a)の構文は(28)のような三人称単数代名詞「俚」を加えた変形文も可能である。なお、劉(1997)では、このような代名詞が加わることについての特別な説明はない。

(28) 昨日子 个 犯人 拨 俚 逃走 脱 嘖。(劉 1997: 7) <蘇州語>

昨日 CLS 犯人 与える 彼 逃げる RVC MOD「昨日犯人に逃げられた。」

同様の構文はシナ語派の他の言語にも見られる。Matthews et al. (2005) と Chen et al. (2018) は、非対格動詞(unaccusative)＋授与動詞]の形式をとる潮州語や北京語などの授与動詞構文を分析し、この構文の意味的特徴が、好ましくない事態変化の影響を話し手が受けることを表すとしている。また、この構文は使役・受身用法の更なる文法化が進んだものとして捉えられ、(29)(30)の通り、義務的、或いは任意的に、形骸化した3人称単数代名詞が文中に現れる。

(29) kai nou-kiã k'e? i kuã tioh. (Matthews et al. 2005: 277) <潮州語>

CLS 子 与える 彼 風邪をひく RVC「子供が風邪をひいてしまった。」

(30) 小偷 给 (他) 跑 了。(Chen et al. 2018: 49) <北京語>

泥棒 与える 彼 逃げる ASP「(残念なことに)泥棒が逃げてしまった。」

沈・司馬(2010)では、北京語の同様の構文における授与動詞「给」の機能を「致使性外力」と呼び、(31)では「或る人」が、(32)では「或る事」が外力としてあると述べている。

(31) 妈妈 给 累 病 了。(沈・司馬 2010: 226) <北京語>

母親 与える 疲れる 病気になる ASP「母は疲れて病気になってしまった。(ある事が母を病気にした)」

(32) 那 犯人 给 跑 了。(沈・司馬 2010: 226) <北京語>

あの 犯人 与える 逃げる ASP「あの犯人は逃げてしまった。(ある人が不注意で犯人を逃がした)」

しかし、シナ語派言語の非意図的授与動詞構文に用いられる動詞は、自動詞(非対格動詞)に限定されない。劉(1997: 7)では、蘇州語の授与動詞構文が他動詞とともに用いられる(33)(34)のような例を挙げ、受動者が主語の位置ではなく、他動詞の後の目的語の位置に留まっている場合、思いがけない事故や収穫などを表すことを指摘している。

(33) 门口头 拨 汽车 撞 杀 一个 人。(劉 1997: 7) <蘇州語>

門 与える 車 ぶつかる 殺す 1 CLS 人「門の前で車が衝突して一人の人を殺してしまった。」

(34) 昨日子 拨 小张 钓着 一条 大鱼。(劉 1997: 7) <蘇州語>

昨日 与える 張さん 釣る 1 CLS 大魚「昨日張さんは一匹の大魚を釣った。」

また、王(2001: 66)によれば、現代中国語には、[把…給V(動詞)]の形式で、結果の意外性を表す用法があり、この用法の下位分類として、道理への背反、思いがけない過失、思いがけない獲得があるとしている。

(35) 为了安排你参加夏令营, 把三斧给顶啦。(王 2001: 66)

「あなたを夏キャンプに参加させるために、三斧(人名)にたてついてしまった。」

(36) 您二位这一好心办好事可好, 倒把我盼了多少年的好事儿给搅啦。(王 2001: 66)

「あなた方お二人が親切心でされたことが、却って私が長年望んでいたことをぶち壊してしまいました。」

(37) 没想到,我还真把么鸡给摸起来了。(王 2001: 66)

「思いもよらず、私はなんと一索牌をツモってきた。」(麻雀をしている人の発話)

3. 3 インド語派

インド語派言語の中でも北部語群に属するネパール語にも、授与動詞構文の非意図的用法を見つけることができる。Pokharel (2000: 150-152) によれば、ネパール語は「動詞連用形 (conjunctive:)+授与動詞」の形式で与益や与害の意味を表すが、授与動詞が自動詞とともに用いられると、その自動詞が表す状態によって誰かが影響を受け、好悪どちらかの感情を持つことを表すという。好悪の感情は、影響を受けた人とその時の状態において益になるのか害になるのかで決まる。なお、(40) の主語は与格で標示されているが、授与動詞が用いられなくても与格の主語をとる。

(38) *hAbA lAg-i di-yo.* (Pokharel 2000: 152) <ネパール語>

風 触れる-CNJ 与える-ASP 「風が吹いてくれた。/風に吹かれた。」

*CNJ: 連用形

(39) *bhuioc.Alo A-i di-yo.* (Pokharel 2000: 152) <ネパール語>

地震 来る-CNJ 与える-ASP 「地震に來られた。」

(40) *ma-lAi Tauko dukh-i di-yo.* (Pokharel 2000:155) <ネパール語>

私-DAT 頭 痛む-CNJ 与える-ASP 「私は頭が痛んだ (私は影響を受けた)。」

更に Pokharel (2000: 152) によれば、ネパール語では更なる授与動詞構文の用法として、意志的ではあるが、それによって引き起こされる結果を何も考えずに行う行為を表す場合があるという。このような例は、意志的に行われるものの、動作主の非制御性が認められるので非意図的用法の一つと考えたい。

(41) *keTA-le bikh khA-i di-yo.* (Pokharel 2000:152) <ネパール語>

少年-ERG 毒 食べる-CNJ 与える-ASP 「少年は結果を考えず毒を飲んだ。」

*ERG: 能格

(42) *keTo aphis-mA sut-i di-yo.* (Pokharel 2000:152) <ネパール語>

少年 事務室-LOC 眠る-CNJ 与える-ASP 「少年は結果を考えず事務室で眠った。」

*LOC: 場格

3. 4 ドラヴィダ語族

北部ドラヴィダ語派に属するクルフ語にも、授与動詞の非意図的用法を確認することができる。Gordon (1973: 60) は、(43a) を (43b) の授与補助動詞構文にすることで、不測事態を表すようになることを指摘している。

(43) a. *mankhus putras.* (Gordon 1973: 60) <クルフ語>

マンク 吐く.PST 「マンクが吐いた。」

b. *mankhus putras ciccas* (Gordon 1973: 60) <クルフ語>

マンク 吐く.PST 与える.PST 「マンクが (期せずして) 吐いた。」

(44) *Nirmala saanti=ma:yva ukkia cicca* (Gordon 1973: 61) <クルフ語>

ニルマラ サンティ=上 座る.PST 与える.PST 「ニルマラはサンティの上に (期せずして) 座ってしまった。」

4. 非意図的授与動詞構文の類型論的分類

以上、ゾゾ語の非意図的授与動詞構文と同様の構文を持つ諸言語の授与動詞構文を見てきた。この構文がシナ・チベット語族の諸言語に散見され、更にこれらの言語が使用される地域の近くに分布するインド語派とドラヴィダ語族の一部にも見られることは、系統的な傾向だけでなく、地域的な傾向があることも考えられる。これらの構文に共通するのは、①授与動詞が原義的に持つ授与行為の動作主項 (授与者) が存在しないことと、②授与動詞が命題内容を話し手や主語に対し意図せず降り掛かった出来事であることとして、補足的に或いは強調して表す文法的機能を有していることである。これは Newman (1996: 157) が示した図 1 の授与動詞の発生用法の拡張 (manifestation extension of give) のイメージ・スキーマを援用することでも説明できる。つまり、授与者である最も際立った参与者 (TR) は背景化され、それ以外の参与者 (LM) は、不測の出来事として観察者の話し手に受け止められるのである。

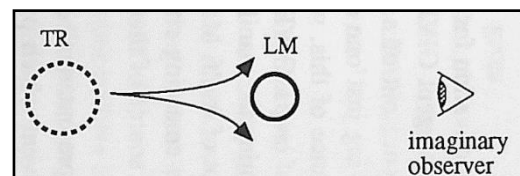


図 1 授与動詞の発生用法の拡張 (Newman 1996: 157)

これらの言語間に見られた授与動詞構文の違いについて考えると、構文が表す意味としては、悪い事態のみを表す言語と、好悪の事態のいずれも表す言語に分類できる。授与動詞とともに使われる動詞としては、自動詞（非対格動詞）に限定される言語と、他動詞のいずれも可能である言語に分類できる。文法化の経路としては、与益・与害構文から派生したゾゾ語やネパール語のような言語の非意図的授与動詞構文と、使役や受動の用法から派生したシナ語派言語の非意図的授与動詞構文に分けられる。ゾゾ語は、今回扱った他言語と比べても非意図的授与動詞の適用範囲が広い言語であると考えられるが、他言語については今後更にデータを集めて検討する必要がある。

5. ドイツ語とルクセンブルク語における発生、存在、状態変化、願望を表す授与動詞構文との対照

非意図的用法ではないが、ゲルマン語派の言語の中には授与動詞の3項性が失われている点で共通する授与動詞構文がある。ドイツ語の授与動詞 *geben* には授与行為だけでなく、発生や存在を表す用法がある。Hammar (1971: 219) は (45) の例を示し、自然や摂理（神）による授与がこの構文の由来となっていると述べている。この考えは、超越的な力により起こった出来事を表す非意図的授与動詞構文にも繋がる場所がある。

- (45) *Es hat letztes Jahr eine gute Ernte gegeben.* (Hammar 1971: 219) <ドイツ語>
it have 昨年 不定冠詞 良い 収穫 与える.PP 「昨年は豊作だった。」 *PP=過去分詞形
- (46) *Berge geben Trauben.* (Newman 1998: 317) <ドイツ語>
山 与える 葡萄.PL 「山は葡萄を産出する。(山で葡萄が取れる)」
- (47) *Sie gab sich ganz natürlich.* (Newman 1996: 160) <ドイツ語>
彼女 与える.PST 自分 とても 自然な 「彼女はナチュラルさを出していた。」
- (48) *Es gibt bald Regen.* (Newman 1998: 323) <ドイツ語>
it 与える すぐに 雨 「雨がすぐに降る。」

更に注目すべき点は、これらの構文が (45) (48) のように仮主語の *es* (英語の *it* に相当) を持つ非人称構文をとったり、(47) のように再帰代名詞 *sich* を取ったりすることである。これは、同じく SVO 言語のシナ語派諸言語の非意図的構文に見られる形骸化した三人称代名詞とも一致する。逆に、本稿で示した SOV 言語については、そのような形式的な主語や目的語の出現はない。よって、基本語順の違いと、今回扱った構文の形骸化した主語や目的語の有無には、何等かの関係性が推測されるが、今後さらにデータを増やして検証する必要がある。

また、ドイツ語とも系統的大変近い関係にありながら、ドイツ語よりも授与用動詞の文法化が更に進んでいる言語としてルクセンブルク語がある。この言語の授与動詞 *ginn* には、発生や存在の用法に加え、(49) のような状態変化（起動相のコピュラ）の用法と (50) のような受動の補助動詞用法があり (Krummes 2004; 西出 2018)、更には (51) のような願望の補助動詞の用法もある (Bruch 1973; 西出 2018)。

- (49) *Wann ech grouss si, ginn ech Pilot.* (Krummes 2004: 14) <ルクセンブルク語>
When 私 大きい am 与える 私 パイロット 「私は大きくなった時に、パイロットになる。」
- (50) *Dat aalt Haus gëtt ofgerass.* (西出 2018: 194) <ルクセンブルク語>
定冠詞 古い 家 与える 取り壊す 「古い家が取り壊されている。」
- (51) *Ech géif gär mat dengem Papp schwätzen.* (Bruch 1973: 71) <ルクセンブルク語>
私 与える 喜んで with あなたの 父 話す 「私はあなたのお父さんと話したい。」

ルクセンブルク語の状態変化を表す授与動詞文は、授与動詞が補助動詞として用いられているものではないため、本稿で取り上げたアジアの言語の授与補助動詞構文とは統語的に異なる。但し、西出 (2018: 207) は、授与動詞の意味が状態変化（起動相のコピュラ動詞化）へとつながる重要な変化が、主語の意図によらずなんらかの結果が生じる意味への転化であると述べており、この意味において、ルクセンブルク語と本稿で示したアジアの言語の非意図的授与動詞構文の類似性は認められる。

また、ルクセンブルク語授与動詞の受動と願望の表現は、いずれも補助動詞を用いる点で、非意図的授与動詞構文と一致する。但し、ルクセンブルク語授与動詞の受動表現は、動作受動 (Actional Passive) のみを許容し、状態受動 (Statal Passive) は許容しない (Krummes 2004: 17; 西出 2018: 202)。このような制約はアジアの言語の授与動詞による受動表現にはない。ルクセンブルク語授与動詞の願望表現のような例も、アジアの言語の授与動詞には見当たらないが、主語の意味役割が動作主ではなく、経験者や被動者になっているという点では、受動表現とも併せて被意図的授

与動詞構文の主語と共通する特徴である。

ルクセンブルク語授与動詞の文法化の過程については、西出 (2018: 209) は[授与]から[発生]を経て、[存在]と[起動相のコピュラ動詞]に枝分かれし、更に[起動相のコピュラ動詞]から[受動]と[願望]に枝分かれしたと述べている。この文法化の過程は、アジアの言語の非意図的授与動詞構文のいずれにも見られない。

6. おわりに

最後に、日本語テクレル文の非意図的授与動詞構文の位置づけについて考えてみたい。日本語の「雨が降ってくれた」のような自然現象のテクレル文は、従来、与益構文の枠組みで捉えられてきたが、3項性が欠如し、受影性や非意図性等も認められる点で、非意図的授与動詞構文の一つに位置付けることが可能である。但し、テクレル文は好ましい事態にのみ用いられる点で、悪い事態を表すことに特化した非意図的授与動詞構文、或いは事態の好悪に関わらず用いられる非意図的授与動詞構文を持つ言語とは異なる。今後は、非意図的授与動詞構文が他の言語にもどの程度観察できるのか更に調べ、類型論的分析を深めていきたい。

参考文献

- Bruch, Robert (1973) *Précis populaire de grammaire luxembourgeoise. Luxemburger Grammatik in volkstümlichem Abriss*. Luxembourg: Editions de la section de linguistique de l'Institut grand-ducal.
- Chen, Weirong & Yap, Foong-Ha (2018) Pathways to adversity and speaker affectedness: On the emergence of unaccusative 'give' constructions in Chinese. *Linguistics* 56 (1), 19-68.
- Hammer, A. E. (1971) *German Grammar and Usage*. Edward Arnold
- Krummes, Cédric (2004): *The Letzebuergesch Verb ginn (give). Grammaticalization from full verb to copula, existential construction, passive auxiliary, and conditional mood auxiliary*. Dissertation (University of Wales).
- Matsuse, Ikuko (2004) The "Give" verb and its auxiliary uses in Newar. 景山太郎、岸本秀樹編『日本語の分析と言語類型：柴谷方良教授還暦記念論文集』、くろしお出版、455-472.
- Matthews, Stephen, Xu, Huiling & Yip, Virginia. (2005). Passive and unaccusative in Jieyang dialect of Chaozhou. *Journal of East Asian Linguistics* 4(4), 267-298.
- Newman, John (1996) *Give: A cognitive linguistic study*. Mouton de Gruyter.
- Newman, John (1998) The origin of the German *es gibt* construction. In: John Newman (ed.) *The Linguistics of Giving*. Amsterdam: Benjamins. 307-325.
- Pokharel, Madhav P. (2000) Benefactive constructions in Nepali. 『神戸言語学論叢』2, 149-179.
- Schackow, Diana (2015). *A grammar of Yakkha* (Studies in Diversity Linguistics 7). Berlin: Language science press.
- Yap, Foong-Ha & Iwasaki, Shoichi. (2003) From causative to passive: A passage in some East and Southeast Asian languages. In Eugene H. Casad & Gary B. Palmer (eds.), *Cognitive linguistics and non-Indo-European languages* (Cognitive linguistics research 18). Berlin & New York: Mouton de Gruyter. 419-446.
- Yap, Foong-Ha & Iwasaki, Shoichi. (2007) The emergence of 'give' passives in East and Southeast Asian languages. In Mark Alves, Paul Sidwell & David Gil (eds.), *Proceedings of the eighth annual meeting of the Southeast Asian linguistics Society*. Canberra: Pacific Linguistics. 193-208.
- Zeisler, Bettina (2013) *Verb-verb sequences in Tibetan and Ladakhi (1200 years of stable transition)*. Eberhard Karls Universität Tübingen. Handout for mysteries of verb-verb complexes in Asian languages 02.12.2013 18:13.
- Zúñiga, Fernando & Seppo Kittilä (eds.) (2010) *Benefactives and malefactives: Typological perspectives and case studies*. Amsterdam / Philadelphia: John Benjamins.
- 澤田惇(2014)「日本語の授与動詞構文の構文パターンの類型化—他言語との比較対照と合わせて—」『言語研究』145: 27-60.
- 王彦杰 (2001) 「把……給V」句式中助詞“給”的使用条件和表達功能『語言教学与研究』第2期、64-70.
- 張濟川 (2009) 「門巴族倉洛語簡志」、中国少数民族語言簡志編委会、中国少数民族語言簡志叢書修訂本編委会編『中国少数民族語言簡志叢書修訂本・卷壹』、北京：民族出版社、839-953.
- 沈陽・司馬翎 (2010) 「句法結構標記“給”与動詞結構的衍生關係」『中国語文』第336期、222-237.
- 西出佳代 (2018) 「ルクセンブルク語における多機能動詞 *lux. ginn* (dt. *geben*)」『独語独文学研究年報』44, 194-213.
- 劉丹青 (1997) 「蘇州方言的動詞謂語句」李如龍、張双慶主編『動詞謂語句』、広州：暨南大学出版社、1-20.